

# 2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立 南小倉小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 （学年・人数）	第5学年50名（2クラス+特別支援学級2クラス）
3 展開の形式	<p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（ 総合的な学習の時間 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 （ねらい）	○ パラリンピアンのお話を聞いたりパラスポーツの体験をしたりすることを通して、ルールや用具を工夫することで誰もが同じスタートラインに立ち、みんなで競技を楽しむことのできることに気づき、多様性を認め合い共に気持ちよく生きるために必要なことについて考え、実践していこうとする心情を養う。
5 取組内容	<p>◎「スポーツ庁から送付される『I'm possible』を活用して、パラリンピックについての学習を行う。」</p> <p>&lt;第1時&gt;「パラリンピックって何だろう」</p> <p>○ パラスポーツで使われる道具のクイズを通して、選手たちの「できない」を「できる」に変える工夫を考えたり、パラリンピックの歴史や移り変わりを学習したりする。</p> <p>&lt;第2時&gt;「パラスポーツに挑戦してみよう」</p> <p>○ パラスポーツ「ボッチャ」を体験して、パラスポーツの魅力や工夫について考える。</p> <p>&lt;第3時&gt;「公平について考えよう」</p> <p>○ 事例を通して、障害の有無にかかわらず一緒にスポーツを楽しむことができるように、どのような工夫ができるかを考える。</p> <p>&lt;第4～13時&gt;「パラリンピックについて、もっと詳しく調べてみよう」</p> <p>○ パラリンピックの学習を通して考えたことを整理しながら、自分の興味のあるパラスポーツについて各自で調べ学習を行う。</p>

<第14～17時>「調べたことを発表し合おう」

- 学んだことを学習発表会で発表する。
- ・ 体の不自由な方の生活とそれを支える道具
- ・ 「パラリンピック」の「見どころ」「ルール」「選手」「工夫」

<第18～19時>

「パラリンピアンとの交流の準備をしよう」

- パラリンピアンとの交流があることを伝え、校内にどのような困難があるかを探し出したり、見つけた問題点の解決策を考えたりする。

<第20・21時>「パラリンピアン（アーチェリー）と交流しよう」



- パラリンピック・アーチェリー日本代表の重定知佳さんとの交流会を実施する。

（昨年度よりの交流のため、所属の榊林テンプ様に依頼）

- ・ アーチェリーの道具やメダルに触れたり、重定さんの生い立ちやパラリンピック競技の楽しさなどについて話を聞いたりする。
- ・ 重定さんへのお礼状を作成し、送付する。

<第22～23時>「再びパラスポーツに挑戦してみよう」

- パラスポーツ「ボールゴール」を体験して、今まで学習したことを踏まえて、パラスポーツの魅力や工夫に迫る。

<第24時>

- 学んだことをまとめる。
- ・ 体の不自由な人とともに生活するためにできること



## 6 主な成果

- 「パラスポーツ体験」活動などを通して体の不自由な方の思いを知ることができ、支援を行なうことの大切さに気付いた記述や発表が見られた。
- パラリンピアンとの交流を行う中で、ルールや道具を整えることで障害のある人も変わらずに取り組むことができることに気づくことができた。  
また、選手と間近で接することで、そのすごさを感じるとともに、親近感を持つことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 継続してパラリンピックに関する取り組みを行う中で、児童のパラリンピックへの興味も高まってきた。実施していく中で「テレビで応援したい」という声が聞かれた。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パラリンピアンに実際に来ていただいて子どもたちと触れ合っていたことで、パラスポーツはもとより、パラそのものを身近に感じることができた。</li> <li>○ ボッチャやボールゴールの道具など、様々な道具を活用し、児童が体験をとおして学べるようにした。</li> <li>○ 個々で調べ学習を行い、学んだことを発表する場を設定したことで、意欲をもって交流会に取り組むことができ、また、学んだことをさらに深めることができた。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 交流会に来て下さるパラリンピアンとの打ち合わせがぎりぎりになり、日程調整が難しかった。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5学年における総合的な学習の時間に「障害者理解」を位置づけ、地域にある「北九州市生涯スポーツセンター」「リハビリテーション病院」等と連携しながら、学習を進めていく。</li> <li>○ 地域でパラリンピックスポーツに携わる方々との交流しながら、「パラリンピック」や「パラリンピックの競技者」また、「障害者」に対する理解を深めていく。</li> </ul>